

## 組織目標評価報告書(平成30年度)

18

部局名: 大学院ヘルスシステム統合科学研究科

部局長名: 妹尾 昌治

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<b>①教育領域</b>	
<b>①-1 目標</b>	
<p><b>全般的目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>医療現場を構成する人々としくみ(ヘルスシステム)の課題を理解し、研究及び技術開発、そして物質面及び人間の理解を併せ持つことで、個人の専門分野を生かしつつ他分野を理解できた上、社会において活用されるモノやアイデアを他者と協働して創出することで、課題の解決に貢献しイノベーションの基盤を支える人材を育成する。</li> </ul> <p><b>教育の実施体制(組織的なFD、教員のインセンティブ向上)について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>組織的なFD研修会を継続的に実施し、理念や目標の理解及び研究科に関わる教員の相互理解を目指す。</li> </ul> <p><b>教育方法・内容について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>超高齢化社会の諸問題の解決に向けて貢献するために、ヘルスシステムを対象として、医工連携や文理融合などの統合科学的手法による教育を推進し、他者と協働してイノベーションを起こす人材育成を目指して、講義(各種概論・倫理総論等を含む)・演習(実践演習・インターンシップ等を含む)・実習(先進病院実習を含む)からなる統合科目と、各専門教育を深化させる専門科目からなる体系的な教育を行う。</li> </ul> <p><b>教育の成果(学習の成果、卒業後の進路)について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個人の専門分野を生かしつつ医工連携や文理融合などの統合科学的手法による教育によって他分野を理解できた上、社会において活用されるモノやアイデアを他者と協働して創出することで、課題の解決に貢献しイノベーションの基盤を支える成果としての修士論文・博士論文を完成させるような指導体制を構築する。</li> <li>卒業後の進路については初年度などで設定しがたいが、研究科の理念を身につけて社会で活躍していけるように支援をする。</li> </ul> <p><b>学生支援について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ヘルスシステム統合科学研究科の目標や教育方針を丁寧にガイダンスし、適切なアドバイスを与えられるように教育体制を整備していく。</li> <li>後期課程への進学を促進する方策を検討する。</li> </ul> <p><b>国際共同による教育の状況について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国際的なダブルディグリーの導入を検討する。</li> </ul> <p><b>外国人留学生の受入状況について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ONECUSプログラムやキャンパスアジアプログラム、プレマスター制度との連携を図り、また海外特別特別入試の整備を検討する。</li> </ul> <p><b>入学定員の確保</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「定員充足率」の向上に向けた種々の教育環境整備や広報活動の推進を検討する。</li> </ul>	<p><b>①-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</b></p> <p><b>全般的目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>先進病院実習をはじめとして、統合科目を履修させ目標とする人材育成に努めた。</li> </ul> <p><b>教育の実施体制(組織的なFD、教員のインセンティブ向上)について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>FD研修会を実施して、オムニバス形式を取っている統合科目の実施状況を全体で確認し、来年度に向け各コーディネータのアレンジにより冗長な部分を改善していく方針をとることとした。</li> </ul> <p><b>教育方法・内容について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>初年度として設置計画により計画されたカリキュラムをシラバスに従って実行した。</li> </ul> <p><b>教育の成果(学習の成果、卒業後の進路)について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実務経験者4名を評価委員に加えて修士論文の中間発表を行い、進捗状況を社会実装の観点から客観的に評価する視点を加えると同時に、優秀な学生の表彰を行った。また、早期修了者1名は博士後期課程へ進学する予定である。なお、博士後期課程の博士論文の中間審査については今年度は該当しないので未実施である。</li> <li>卒業後の進路について、希望者には求人に対して推薦を行う体制を整えた。</li> </ul> <p><b>学生支援について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年度の初めに全体に対してオリエンテーションを行った。また、実習、演習、インターンシップについては適宜ガイダンスを行った。</li> <li>求人環境が優勢な中で後期課程への進学を促進する方策は難しいが、発表会において優秀者の表彰などの方策でモチベーションを上げる方策を採った。</li> </ul> <p><b>国際共同による教育の状況について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国際的なダブルディグリーの導入を検討するために、ウエイ州立大学および長庚大学とアカデミックカレンダーの調整と双方向のシステム作りの点で交渉継続中である。</li> </ul> <p><b>外国人留学生の受入状況について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ONECUSプログラムやキャンパスアジアプログラムについては対象大学(東北師範大学、吉林大学、ハルビン工科大学、長春理工大学)との協定締結の交渉を始めている。大連医科大学等、次年度以降にも展開する予定である。海外特別入試の整備は、特に博士前期課程における授業の英語化と同時に検討する。</li> </ul> <p><b>入学定員の確保</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学生の為の自習室やセミナー室の確保、遠隔講義システムの導入などにより教育環境整備を行った。また、講演会(2回)、説明会(3回)、研究会(2回)、報告会(1回)およびシンポジウム(1回)において広報に努めた。</li> </ul>
<b>①-2 年度計画との関連</b>	
<p><b>教育方法・内容について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年度計画9-1(以下数字のみ示す):特に、先進病院実習、ヘルスシステム統合科学演習については、本研究科の全部門教員が協力し、組織的に取り組む。それゆえ、異分野融合教育、倫理教育の充実に繋げる。</li> <li>これら統合科目の演習・実習は、実践型社会連携教育そのものである。医療機関・介護施設・企業に向き社会連携のもと、社会実装にむけたアイデアを創出することに留意していく。</li> <li>以上の統合科学への創意工夫に溢れる教員の教育実践を評価していく方途を検討する。</li> <li>14-1, 2: 無線ネットワーク環境を教室に整備して、社会人(遠隔地)の受入体制を整えることを検討する。</li> </ul> <p><b>教育の成果(学習の成果、卒業後の進路)について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(初年度のため、設定は難しい。修論のテーマや次年度で就職状況が指標となる)</li> </ul> <p><b>学生支援について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>19-1: 既存の前期課程の学生の後期課程への進学意欲を高める目的として、RA・TAの雇用を積極的に実施する。進学した学生を毎年エンカレッジするような表彰制度(研究科長賞、優秀発表賞)を各部門単位で整備することを検討する。</li> </ul> <p><b>国際共同による教育の状況について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外国人留学生の受入状況について</li> <li>26-3: 英語、日本語等の外部試験を活用した入試を実施し、またさらに有効な活用方法を検討する。</li> </ul>	<p><b>①-2 大学全体への貢献</b></p> <p><b>教育方法・内容について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>先進病院実習、ヘルスシステム統合科学演習については、本研究科の全部門教員が協力し、組織的に取り組んだ。</li> <li>統合科目の演習・実習については、民間企業が参加するセミナー、研究会、研修会に学生を参加させ、社会的課題の発見とその分析を通じて社会実装にむけたアイデアの創出への繋がりを学修させた。</li> <li>民間企業が参加するセミナー、研究会、研修会の発掘から教育への実践を学び取る姿勢について、FD研修などを通じて議論することを検討している。</li> <li>14-1, 2: 遠隔講義システムを導入した。この具体的な利用について検討中である。</li> </ul> <p><b>教育の成果(学習の成果、卒業後の進路)について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>博士前期課程の成績優秀者1名が早期修了で、後期課程へ進学する予定である。</li> </ul> <p><b>学生支援について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>19-1: 前期課程の時間割から考えて就業時間数が制限されるため初年度からのTAの雇用を積極的に展開することはできなかったが、修士論文の中間発表においては、優秀発表賞を授与した。博士後期課程学生はRAに採用した。さらに、研究科長賞を前期課程早期修了者に授与した。この早期修了者は後期課程進学予定である。</li> <li>国際共同による教育の状況については、まだ具体的な成果はない。</li> </ul> <p><b>外国人留学生の受入状況について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>博士後期課程にエジプト、シリア、中国等から6名が10月に入学した。</li> <li>26-3: 博士前期課程ではヘルスケアサイエンス部門の教育研究分野では日本語能力試験N2またはTOEFL-IBT61点を条件として実施した。また、ヒューマンケアイノベーションの教育研究分野で日本語能力試験N1を条件として実施した。博士後期課程については言語の外部試験は活用していない。</li> </ul>
<b>①-3 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	
<p>本研究科は4月発足で、その後の定期的な文科省・大学設置審議会へのアフターケア報告に関連する授業の実施体制や状況、入試の状況等が指標としてまず用いられるが、統合科学の教育の特色や教員の貢献を計れる指標も導入していきたい。</p>	<p><b>①-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</b></p> <p>統合科学の教育の特色や教員の貢献を計れる指標も含め、周囲の意見を取り入れながら個人評価調書を策定中である。</p>
<b>②研究領域</b>	
<b>②-1 目標</b>	
<p><b>全般的目標:</b></p> <p>超高齢化社会の諸問題の解決に向けて貢献するために、ヘルスシステムを対象として、医工連携や文理融合などの統合科学的手法による研究を推進し、イノベーションを起こす国際拠点の形成を目指した研究支援を行う。</p> <p><b>具体的目標:</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ヘルスシステムに関連する統合科学研究を推進するとともに、研究成果を積極的に発信する。</li> <li>ヘルスシステムに関連する学内外の組織との連携研究を推進する。</li> <li>研究科教員によるグローバル化プロジェクトの提案を推進する。</li> <li>国際拠点形成の活動を支援する。</li> </ol>	<p><b>②-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>研究科成果を推進するために、提案を募集して若手を中心に7件の研究費を支援した。</li> <li>医歯薬学総合研究科、保健学研究科、自然科学研究科、環境生命科学研究科、社会文化科学研究科との連携研究を各教育研究分野レベルで推進している。</li> <li>基盤となる国際交流協定について整備を図ってきたが、次年度以降順次提案の募集を検討する。</li> <li>中国東北地域、台湾、米国ミシガン州/カリフォルニア州を中心とした活動を支援するべく基盤を整備している。</li> </ol>

<p><b>②-2 年度計画との関連</b></p> <p>目標1:36-1:研究領域の絞り込みを行い、学内における連携を推進するとともに外部機関等との連携の強化を行うことと関連する。また、32-1:医工連携等異分野融合領域をはじめとした岡山大学のシーズによる具体的な成果を創出し普及や、33-1, 2:研究成果紹介活動等の研究情報の発信と関連する。さらに、50-3:医療工学分野の強化等の取組として、異分野を融合して全学的に新たな研究科を設置し、医療工学分野の教育研究を強力に推進するに関連する。</p> <p>目標2:27-1:異分野融合研究などの総合大学の利点を活かした、特色のある新しい研究プロジェクトの発掘・育成や27-1:医歯薬系の「橋渡し研究」を全学的にさらに推進するに関連する。また、36-1:強化すべき分野の国際共同研究数、国際共著率などの指標を第2期中期目標期間末に比し3割上昇させるに関連する。</p> <p>目標3:41-1:若手を中心とした海外協定校との研究者交流を推進に関連する。</p> <p>目標4:36-1:強化すべき分野の国際共同研究数、国際共著率などの指標を第2期中期目標期間末に比し3割上昇させるや、37-1:学外機関等との連携等を強化しながら次世代における研究拠点を確立する仕組みを構築するに関連する。</p>	<p><b>②-2 大学全体への貢献</b></p> <p>目標1:36-1, 32-1, 33-1, 2, 50-3: まず研究科全体を把握できるように各教育研究分野の概要をまとめた研究科案内を作成し、外部への研究紹介を行うための準備を整えた。今後、この中から該当するプロジェクトを抽出していくことになる。</p> <p>目標2:27-1:27-1:36-1: 国際共著率は<b>43%</b>であった。国際共同研究数は現在進行中のものを含めて30年度末現在調査中である。</p> <p>目標3:41-1: 30年度の海外協定校との研究者交流は<b>米国ウエイン州立大学1人</b>。</p> <p>目標4:36-1, 37-1:ウエイン州立大学における拠点を利用してテーマ拡大を国際シンポジウムを等通して検討している。</p>
<p><b>②-3 目標とする(重要視する)客観的指標</b></p> <p>目標1:学会発表数、国際シンポジウム発表数、論文数 目標2:連携研究数、共著学会発表数、共著国際シンポジウム発表数、共著論文数 目標3:支援数、支援金額、グローバルな研究者の派遣受入数、海外からの研究者来訪者数、国際交流協定締結数</p>	<p><b>②-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</b></p> <p>目標1:30年度末調べで、学会発表数148、国際シンポジウム40、論文数105、著書3件 目標2:30年度末調べで、国際共著論文37(国際共著率38%) (連携研究数、共著学会発表数、共著国際シンポジウム発表数については調査中) 目標3:30年度実績は <b>支援数9件、支援金額700万円、</b> グローバルな研究者の派遣受入数:外国人客員研究員として受け入れた者8人 海外からの研究者来訪者数:中国30、米国8、カナダ1、オーストラリア9、ロシア4、シンガポール2、香港1、韓国2、アイルランド1、ドイツ3、クロアチア2、ブルガリア1、エジプト1 国際交流協定締結数:大学間1件、部局間5件</p>
<p><b>③社会貢献(診療を含む)領域</b></p>	
<p><b>③-1 目標</b></p> <p>全般的目標 超高齢化社会の諸問題の解決に向けて貢献するために、ヘルスシステムを対象として、医工連携や文理融合などの統合科学的手法による研究を推進し、イノベーションを起こす国際拠点の形成を目指した研究支援を行う。</p> <p>具体的目標 1.ヘルスシステムに関連する統合科学研究の成果を論文、研究会、講演会等を通して積極的に広報・発信するとともに社会に還元する。 2.統合科学に関する英語書籍の日本語訳の出版を企画する。</p>	<p><b>③-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</b></p> <p>全般的目標 現状では目標達成に向けた基盤作りを行っている。</p> <p>具体的目標 1.論文、研究会、講演会等を通して積極的に広報・発信に努めている。 2. <b>An Introduction to Interdisciplinary Research: Theory and Practice. Eds. Steph Menken, Machiel Keestra, Amsterdam University Press (2016)</b> の翻訳をほぼ完了し、現在出版の準備中である。</p>
<p><b>③-2 年度計画との関連</b></p> <p>目標1:32-1:医工連携等異分野融合領域をはじめとした岡山大学のシーズによる具体的な成果を創出し普及や、33-1, 2:研究成果紹介活動等の研究情報の発信と関連する。また、47-1, 2:岡山大学の研究情報の提供、学術的な知を易しく紹介する公開講座を開催するや、49-3:サイエンスカフェ開催を維持するに関連する。 目標2:33-1, 2:研究成果紹介活動等の研究情報の発信と関連する。</p>	<p><b>③-2 大学全体への貢献</b></p> <p>目標1:32-1, 33-1, 2, 47-1, 2, 49-3: 本年度は<b>ソーシャル・イノベーション</b>をテーマに国際シンポジウムを企画し開催した。次年度も、テーマを種々選択して、セミナー、公開講座の開催を計画を予定。 目標2:33-1, 2: 研究科全体を把握できるように各教育研究分野の概要をまとめた冊子を作成し、外部への研究紹介を行うための準備を整えた。</p>
<p><b>③-3 目標とする(重要視する)客観的指標</b></p> <p>目標1:学会発表数、国際シンポジウム発表数、論文数 目標2:翻訳に取り組む英語書籍数</p>	<p><b>③-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</b></p> <p>目標1:30年度末調べで、学会発表数148件、国際シンポジウム40件、論文数105報、著書3件 目標2:翻訳に取り組む英語書籍数1件</p>
<p><b>④管理運営領域</b></p>	
<p><b>④-1 目標</b></p> <p>部局運営体制の改善強化について ・他部局との情報共有と連絡調整を行うための会議体制を作る。 ・研究科長と4名の副研究科長で科長室会議を構成し執行部体制とする。 ・各副研究科長は所掌に関連する委員会を束ねる。 ・各教員を専門別グループとして部門に分け、各部門に部門長を置く。部門長は、執行部と各部門間の連絡調整を行う。 ・研究科の規定整備を進める。</p> <p>部局組織の活性化について ・FD研修を定期的に行って研究科の情報共有とミッションを確認しながら組織の活性化を図る。</p> <p>ダイバーシティの推進(女性教員・外国人教員比率・次世代育成支援等)について ・女性教員・外国人教員比率向上のためにポストアップを含め人材育成に努める。次世代育成支援のための予算配分等を検討する。</p> <p>効率的・戦略的な予算配分・執行について ・重点施策として、国際連携コーディネータの雇用、教員による統合科学グローバル化プロジェクトの提案、RA/TAによる学生の雇用促進に対する予算配分を行う。</p> <p>安全衛生に対する配慮について ・安全衛生に関する講習会の受講促進を行い、構成員の意識向上を図る。これには、情報セキュリティ、化学物質の管理、教職員のメンタルヘルスに関するものを含む。</p> <p>施設整備の推進について ・社会人学生等の受け入れや産学連携等に対応できる施設(例えば、共用スペース、東京オフィス、岡山大インキュベータ等)の活用を促進する。</p> <p>法令遵守の徹底について ・コンプライアンス教育の促進を行い、研究活動の不正行為および研究費の不正使用の防止について教職員および学生の意識向上を図る。</p>	<p><b>④-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</b></p> <p>部局運営体制の改善強化について ・今年度は医療系拡大部局長会議および医歯薬学総合研究科運営会議に参加して情報共有に努めた。今後は、自然科学、環境生命科学、社会文化科学の3研究科とも情報交換の場を作って行きたい。 ・初年度で規定の作成整備や新カリキュラム実施など取り組むべき課題が多くあったが、月2回の科長室会議で運営体制を維持してきた。 ・研究科に“企画・戦略委員会”、“広報・情報委員会”、“学務委員会”、“安全衛生委員会”、“医療組織連携委員会”、“自己評価委員会”を置き、各副研究科長に各委員会の委員長を委任している。 ・各教員を4部門“バイオ・創薬”、“医療機器医用材料”、“ヘルスシスケアサイエンス”、“ヒューマンケアイノベーション”に分け各部門に部門長を置いて執行部と各部門間の連絡調整を行う体制を整えた。 ・必要性の高いものから優先順位を決めて、順に規定を整備してきた。</p> <p>部局組織の活性化について ・FD研修会と称して行ったものは3月に1回だけであるが、初年度のカリキュラム進行の必要性から学生への説明会に先んじて教員の研修会を3回(4月、7月、9月)行った。 ダイバーシティの推進(女性教員・外国人教員比率・次世代育成支援等)について ・年次進行の期間でもあり教員の異動は現状維持で、本項目については特に該当案件は生じなかった。</p> <p>効率的・戦略的な予算配分・執行について ・国際連携コーディネータの雇用については、交渉を行ったが、双方の時期的なタイミングが合わず初年度は実現しなかった。初年度で時間と対象学生が限られたこともあり、TAによる学生の雇用促進に対する予算配分はできなかった。博士後期課程学生1名をRA雇用した。</p> <p>安全衛生に対する配慮について ・H30年度は各学部で開催されたものと重複するケースがほとんどで、これに依存する結果となった。学部兼担のない教員へは全学に対して行われるものへ参加できるよう配慮した。</p> <p>施設整備の推進について ・今年度は該当スペースを自然科学研究科棟に5室、総合研究棟に1室、基礎医学棟に1室の確保を行って教育研究の推進に利用している。</p> <p>法令遵守の徹底について ・コンプライアンス教育は、学生に対しては入学時のオリエンテーションで徹底を努めた。さらに講義の中でも製薬会社のコンプライアンス担当者を非常勤講師として招き、2時間の講義を依頼した(6月)。教員に対しては、H30年度は各学部で開催されたものと重複するケースがほとんどで、これに依存する結果となった。学部兼担のない教員へは全学に対して行われるものへ参加できるよう配慮した。</p>

<p><b>④-2 年度計画との関連</b></p> <p>67-1, 2: 大学情報の管理と分析(IRを含む)機能を強化することにより、大学の現状等に関する客観的な情報を迅速に提供し、情報戦略機能を確立する。</p> <p>16-1: 教育の国際化を意識したファカルティ・ディベロップメント(FD)、プレFD、スタッフ・ディベロップメント(SD)を毎年複数回開催し、教員、教育支援者及び教育補助者の資質の向上を推進する。</p> <p>70-1: ダイバーシティ推進のため、組織的支援を強化する。男女共同参画の推進により、女性研究者10人以上を上位職に登用するポストアップ制度を構築し、女性研究者の上位職への積極的登用を進めるとともに、女性教員比率を高め、第2期中期目標期間末に比して2割増加させる。</p> <p>86-1, 2: 学生や教職員の安全確保、地域・社会との共生、企業との共同研究の充実・拡大、グローバル化の推進・イノベーション創出や人材養成機能の強化及び安全・安心な医療等の変化へ対応した教育研究医療環境の整備を推進する。</p> <p>89-1: 学生、教職員に対する安全衛生教育を徹底することにより、構成員全員の危機管理・安全衛生意識を向上させる。</p> <p>90-1: 学生、教職員に対する情報リテラシー教育を徹底することにより、情報セキュリティや情報コンプライアンスの意識をさらに向上させる。</p> <p>91-1: 毒物・劇物をはじめ、化学物質の危機管理を含む環境マネジメントに関する教育及び事故の未然防止をさらに推進する。</p> <p>93-1: 研究における不正行為及び研究費の不正使用を防止するため、教職員をはじめ、学生等の構成員に対する倫理教育の強化やe-Learning等によるコンプライアンス教育の実施により、不正を事前に防止する体制や組織の責任体制の整備・改善を推進する。</p>	<p><b>④-2 大学全体への貢献</b></p> <p>67-1, 2: 企画・戦略委員会がこの任にあたった。本年度は、教員の評価項目の設定が主であった。</p> <p>16-1: 30年度は、新カリキュラムに対する研修が中心であったが、国際化については学生の受け入れ派遣に関しての留意を促す事に努める程度であった。</p> <p>70-1: 年次進行中のため本年度は該当する活動はなかった。</p> <p>86-1, 2: 30年度はこの項目に対する必要度は低く、該当者(主に留学生)のみへの配慮となった。</p> <p>89-1: 学生に対しては入学時オリエンテーションで徹底している。構成員に対しては研修会等への積極的な参加を促している。</p> <p>90-1: 学生に対しては入学時オリエンテーションで徹底している。構成員に対しては研修会参加およびe-Learning受講への積極的な取り組みを促している。</p> <p>91-1: 該当学生に対しては、入学時オリエンテーションおよび配属された各教育研究分野で指導している。構成員に対しては研修会参加およびe-Learning受講への積極的な取り組みを促している。</p> <p>93-1: コンプライアンス教育は、学生に対しては入学時のオリエンテーションで徹底を努めた。さらに講義の中でも製薬会社のコンプライアンス担当者を非常勤講師として招き、2時間の講義を依頼した(6月)。教員に対しては、H30年度は各学部で開催されたものと重複するケースがほとんどで、これに依存する結果となった。学部兼担のない教員へは全学に対して行われるものへ参加できるよう配慮した。</p>
<p><b>④-3 目標とする(重要視する)客観的指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 部局運営体制の改善強化のために、月例会を1回以上開催し、研究科内外の情報共有と連絡調整を行う。</li> <li>・ 部局組織の活性化のためにFD研修を2回/年以上行う。</li> <li>・ 女性教員・外国人教員比率を2%以上にする。また、次世代育成支援のための予算配分を検討してダイバーシティを推進する。</li> <li>・ 効率的・戦略的な予算配分・執行を行うために、国際連携コーディネータ2名の雇用、教員による統合科学グローバル化プロジェクト提案および学生のRA/TA経費に対する予算配分を行う。</li> <li>・ 安全衛生に関する講習会の受講状況。</li> <li>・ 社会人学生等の受け入れや産学連携等に対応できる施設(例えば、共用スペース、東京オフィス、岡山大インキュベータ等)活用状況。</li> <li>・ コンプライアンス教育のための講習会の受講状況。</li> </ul>	<p><b>④-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 科長室会議および教授会を中心に部門会議を経て研究科全体への情報共有と連絡調整を行ってきた。</li> <li>・ FD研修会と称して行ったものは3月に1回だけであるが、初年度のカリキュラム進行の必要性から学生への説明会に先んじて教員の研修会を3回(4月、7月、9月)行った。</li> <li>・ 現在の専任教員44名における女性比率は、13.6%である。また、若手支援として3名(女性1)の教員に対し研究費援助を行った。</li> <li>・ 国際連携コーディネータの雇用については実現できていない。教員による統合科学グローバル化プロジェクト(教育面の充実)提案2件を支援した。博士後期課程学生1名をRAとして雇用した。</li> <li>・ 安全衛生に関する講習会の受講状況については学生は全員受講、教員については実数把握ができていない。</li> <li>・ 学内に計7室の共用スペースを確保して運用している。</li> <li>・ コンプライアンス教育のための講習会の受講状況については学生は全員受講、教員については実数把握ができていない。</li> </ul>
<p><b>【総括記述欄】</b></p> <p>教育に関しては設置計画に則る部分が多いが、設置初年度で過去のデータがないこともあり、全てにおいて比較できるような要素が少なく苦慮する点が多かった。多くの課題は科長室会議および教授会で議論し解決を図るようになってきた。教員の所在が広範で津島と鹿田にまたがっていることでキャンパス移動における交通の安全を促す必要性や学部兼担の有無で情報の流れが異なることなどは今後対応すべき課題である。統合科学コーディネータを雇用して産学連携により学生のインターンシップ促進充実策を進める準備を含めて、概ね計画通りに進行していると判断している。</p> <p>研究については、研究科案内に具体的に記された研究内容を軸に、医工連携、異分野融合の範疇で今後プロジェクトを抽出育成し支援していく方向で考えている。実現できていない点として、グローバル化促進のための国際連携コーディネータの雇用がある。これについては、現在海外の協定先と条件について交渉を継続中である。安全衛生教育、コンプライアンス教育(研究不正、情報セキュリティ等)の促進は重要であるので、受講者の把握など、今後も徹底させる方策を考える必要がある。</p>	